

平成 27 年 3 月 27 日

平成 26 年度 地域貢献活動支援報告書

社会連携研究センター長 殿

所 属 人文学部文化学科
氏 名 塚本 明

活動テーマ	大学・市民連携による持続的地域文化運動の構築 ～奥熊野山村文書の調査と活用～
実施期間	平成 26 年 6 月 1 日 ～ 平成 27 年 3 月 24 日
活動内容	本事業は、熊野（紀南）地域に豊富に残された古文書史料を、熊野市教育委員会及び御浜町教育委員会の協力を得て、地元市民グループ・熊野古文書同好会と共同で学術調査を行うものであり、2008～2009 年度に実施した熊野市大泊町善根宿納札調査（調査対象となった「納札」は、後に三重県指定文化財に登録）、2010 年度の湯谷かやのき資料館所蔵文書の調査、2011～2012 年度の熊野市歴史資料館所蔵文書調査に続く活動である。昨年度と今年度は、奥熊野の山村・育生町粉所区に伝わる古文書調査を実施した。合わせて、御浜町の裏の屋敷資料館所蔵資料の概況調査も行った。 （１） 具体的な活動実施内容 第 1 回集中調査を 9 月 24～26 日に実施した。参加者は三重大側 15 名（教員 1 名、学生等 14 名）、熊野古文書同好会 5 名、延べ人数 54 名であった。第 2 回集中調査は 2015 年 3 月 21 日～23 日に行い、三重大側 19 名、熊野古文書同好会 5 名の参加、延べ人数は 63 名であった。 調査作業は、一時的に古文書を借り出し、熊野少年自然の家を会場として行ったが、2 度の集中調査の最終日には粉所区を訪れ、調査の成果を報告し、住民の皆さんと交流を深めた。 2 度の調査を通して、当地の林業や茶生産など生業に関する史料、家族構成についての興味深い史料、粉所村にある宝禅寺の住職交代や村との関わりに関する記録、紀州藩政、特に代官と大庄屋機構の機能が分かる史料などを多数見出した。 昨年度までと合わせ計 5 度の調査で粉所文書全点の調査を終えることができた。今年度 2 回目の調査カードはまだ未入力であるが、計 1500 点ほどのデータを整理した目録を仕上げ、粉所区と熊野市教育委員会に送付する予定である。 熊野古文書同好会のメンバーと塚本及び三重大の学生たちを執筆者として、今年の 1 月から地元新聞「吉野熊野新聞」及び「南紀新報」に「古文書に見る熊野の暮らし」と題する連載コラムを開始した。毎週土曜日に掲載しているが、熊野側と三重大側が交互に担当し、地元の皆さんから好評を得ている。 塚本研究室では、2014 年度の「日本歴史演習 C・D」のなかで、これらの文書を用い、教育資料としての活用も図っている。

(2) 地域への貢献（地域の発展・活性化への寄与、広がり）

紀南地域（熊野市、御浜町、紀宝町）には、古文書資料が豊富に残されているものの、古文書を取り扱える専門家が不在のため、十分な調査がなされてこなかった。本事業により、当該地域の古文書史料を出来る限り把握し、将来の活用につなげていくことを目指した。これは熊野市教育委員会及び御浜町教育委員会からも要望されていることである。

古文書の現地調査と調査成果の報告会、地元住民との交流会などについては、紀南地域の文化活動や歴史像解明に大きく貢献することが、行政のみならず住民からも期待されている。

熊野古文書同好会では、崩し字史料の輪読会を定期的に行っており、崩し字の解読能力は向上しているが、古文書の内容を理解し、学術的に読み解き、歴史的な事実を紹介することには習熟していない。今年度から開始した地元新聞への連載コラムでは、古文書同好会のメンバーが執筆した原稿を塚本がチェックし、史実の把握や史料の使い方、文章表現を含めて指導を行っている。その結果、質の高い記事となり、新聞の読者である地域住民から好評を得られている。

(3) 共同実施者との連携状況

熊野古文書同好会とは今年度2回実施した集中調査を共同で行ったほか、現地見学会、成果報告会などを通して密な交流を図った。熊野市教育委員会及び御浜町教育委員会からは、古文書の所在調査、調査の成果報告会、区民との交流会などにおいて、熱心な御支援を頂いた。

(4) 大学の教育・研究成果のかかわり

集中調査で撮影した古文書史料を、大学でのゼミ演習などで活用するなど、教材としても利用させて頂いている。原文書を直接扱うことで、学芸員の実務仕事の一部を体験することにもなっている。

現地に赴き、原文書を用いて調査を行う機会は、学生にとって貴重な経験であり、参加した学生には学ぶ意欲の向上が顕著に見られる。また地元住民と共同で作業することによる社会的経験値の高まりも大きい。現地を訪れ、地元の方に古文書の内容紹介を学生たちが担当したが、これは説明・情報発信能力を向上させる上でも意義深いものであった。

(5) イベント等開催実績（名称、実施場所、参加人数等）

熊野市粉所文書及び御浜町裏の屋敷文書調査、熊野少年自然の家及び裏の屋敷資料館、延べ54名（第1回）、延べ63名（第2回）。

(6) これまでの取組みによって得られた具体的な成果について

この2年間の調査により、粉所文書全点の調査を終えることができた（目録作成予定）。地元新聞への記事連載により、熊野古道沿いの地域の歴史性が史実に基づき明らかにされつつある。これらを通して古文書の文化財的な価値や当地の歴史的な魅力について、住民理解が深まった。



裏の屋敷資料館調査風景